

AI時代の企業競争力：『発明力』から『権利化力』へのシフト

問題：競争ルールの変化

競争力の源泉が「発明力」から「権利化力」へ

AIによる発明の高速化と希少価値の低下

類似技術が同時多発的に生まれ、独自のアイデアで差をつけることが困難に。

AIによる発明の高速化と希少価値の低下

類似技術が同時多発的に生まれ、独自のアイデアで差をつけることが困難に。

「境界の崩壊」と技術コンタミネーションのリスク

外部情報が自社技術に混入し、発明の正当な所有権を証明できなくなる危険が増大。

技術を創る力よりも、その技術を自社の権利として法的に確保する能力が重要に。

解決策：「権利化力」を構築する方法

VDR（仮想データルーム）で発明の純度を守る



Time	Access
01:30:35.000	
01:30:37.000	
01:30:36.000	

VDR（仮想データルーム）で発明の純度を守る

外部資料を完全に隔離し、全アクセスログを記録して「汚染のない証跡」を確保する。

「AI発明工場」で知財創出プロセスを強化する

社内文書から発明様稿を自動抽出し、分析から権利化までのサイクルを高適化する



「AI発明工場」で知財創出プロセスを強化する

社内文書から発明様稿を自動抽出、分析から権利化までのサイクルを高適化する

競争優位の新たな形：技術ガバナンス



競争優位の新たな形：技術ガバナンス

発明の質に加え、その管理と証明の質が企業の価値を決定づける時代へ。